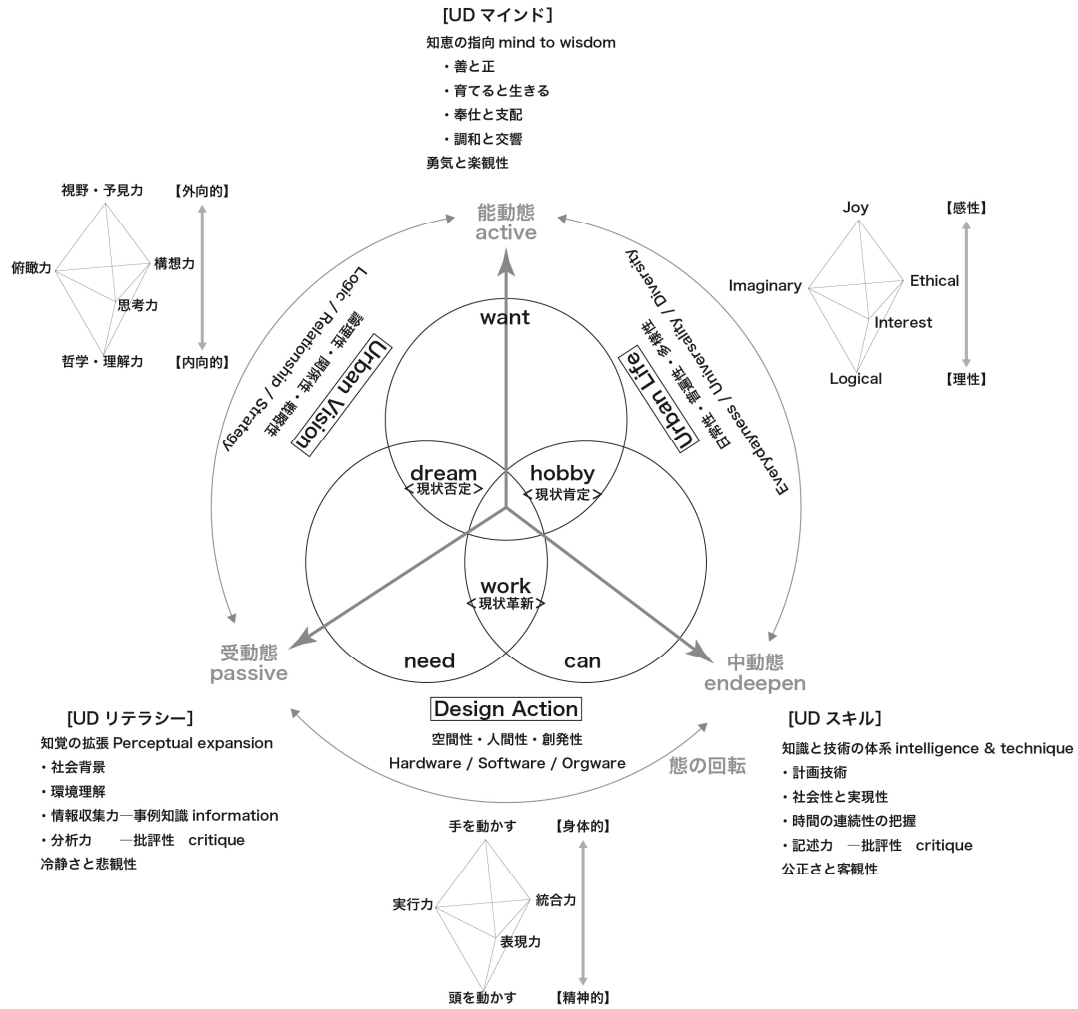


ティーチング・ポートフォリオ



Urban Designer as Urbanist ・都市空間生成研究室

大学名 東京都市大学
 所属 都市生活学部
 名前 中島伸
 作成日 2022年8月30日

1. 責務

都市生活学部に所属し、都市空間生成研究室を主宰し、専門である都市デザイン分野に教育・研究活動を行っている。

○学部講義演習科目

1年次必修科目「空間デザイン演習（1）」統括担当

1年次選択科目「空間デザイン演習（2）（3）」担当

2年次選択科目「国際都市経営概論（2）」分担担当

3年次専門科目「建築空間論」担当「Urban Environment Design」分担担当

○研究室ゼミ科目

3年次「プロジェクト演習」、4年次「卒業研究」担当

大学院「修士研究科目（科目名省略）担当

○クラス担任科目

SD-PBL、キャリアデザイン

○大学院授業科目

「都市デザイン特論」「建築デザイン特論」分担担当

○学部教務委員

○オープンキャンパス運営指導 学部責任担当

○フットサルサークル顧問

2. 理念

研究室において、普段より WEB 等で掲げている研究室のコンセプトは、「日常の挨拶から世界平和まで」「都市の個性を理解したい」の2つであり、対象とアプローチについて説明している。この2つのコンセプトに基づき、ここでは3つの理念を掲げた。

①主体的なまちづくりのプレイヤーとしての成長と思考力の涵養

都市生活学部で都市デザインを実践的に学ぶとは、主体的な地域のまちづくりプレイヤーとして、その専門性を発揮することになるが、問題提起から計画、デザインの提案までの実践において、論理的な思考力を涵養することが重要になり、主体的に学ぶ学生になってほしい。

②都市デザインの現場のリアリティの伝達

都市デザインは学内の実験室で起きるのではなく、実際の地域社会の中で様々な関係者の関係を通じて育まれるデザイン行為である。そのため現場のリアリティを理解する、想像する力が重要であり、そうした他者や外在化した都市に対する関心を持ち続け、自分の糧とすることができる学生になってほしい。

③自らの都市生活の充実（幸福の追求）とプロフェッショナルの両立

都市生活学部では、都市生活に新しい価値創造をもたらす人材の育成を標榜しており、教員の一人として都市デザイン分野からそうした人材育成を実施しているが、併せて学生に追究したいのは、学生個人の都市生活者としての幸せの追求である。これら2つは都市生活学において相反するものではなく、両立するものとして学生には理解して、学びを深めて都市を探究し、実践してもらいたい。

自分自身がよく生きる（ないしよく生きようとする）ことの先に、都市で暮らす、隣人、他者、地域社

会がよりよくなることが本人にとっての生きがいとなり、そこでプロフェッショナルを発揮できる人材となることが希望である。

3. 方法

上記理念に基づき、方針と方法を整理する。

【理念①】 主体的なまちづくりのプレイヤーとしての成長と思考力の涵養

主体的なプレイヤーとして成長するために、個人としての思考力を高めることとグループでの議論を通じて物事に対する理解をより深化させることができる参画能力の向上が重要である。

方針 1) 主体的な思考力の涵養

方針 2) 動機づけの習慣化／自分事化の醸成

【理念②】 都市デザインの現場のリアリティの伝達

都市デザインの現場は多様なステークホルダーとの調整に基づき、成果物を協働によって作り上げていく。そのため、常に現場には他者が存在し、その複数かつ複雑な他者との関係性の中で実践される。そのため、多くの事例から現場のリアリティを学ぶことが重要であり、それらを通じて地域に向き合う主体性と自分事化して考えられることが重要である。

方針 2) 動機づけの習慣化／自分事化の醸成

方針 3) まちづくりの現場感覚の理解

【理念③】 自らの都市生活の充実（幸福の追求）とプロフェッショナルの両立

自らの都市生活と仕事や営みとしての都市デザインをどのように架橋するかであるが、これまでの先達である多くの都市デザイナーやアーバンistについて理解すること、その地平の連続に自分もいると想像し、キャリアをイメージしていくことが重要であると考え。そのため、以下の方針が該当する。

方針 2) 動機づけの習慣化／自分事化の醸成

方針 3) まちづくりの現場感覚の理解

各方針には、それぞれに以下のような方法をこれまでに実践してきている。

方針 1) 主体的な思考力の涵養

方法 (1) 学生の主体性を挙げるための動機づけと科目の関係を説明する

方法 (2) 学生の発言機会を増やす／学生の発言しやすい雰囲気をつくる
学生の発言に対する発言を求める

方法 (3) フォーム利用した授業フィードバック

方法 (4) 授業に限らず相談にのる

方針 2) 動機づけの習慣化／自分事化の醸成

方法 (1) 学生の主体性を挙げるための動機づけと科目の関係を説明する

方法 (2) 学生の発言機会を増やす／学生の発言しやすい雰囲気をつくる
学生の発言に対する発言を求める

方法 (3) フォーム利用した授業フィードバック

- 方法 (4) 授業に限らず相談にのる
 - 方法 (5) キャリアイメージの共有と相談
 - 方法 (6) 現地フィールドワークの実施
 - 方法 (7) 多様なステークホルダーとの協働や交流の経験
 - 方法 (8) 教科書知識に対する経験・事例の説明
- 方針 3) まちづくりの現場感覚の理解
- 方法 (6) 現地フィールドワークの実施
 - 方法 (7) 多様なステークホルダーとの協働や交流の経験
 - 方法 (8) 教科書知識に対する経験・事例の説明

4. 成果

- 方針 1) 授業評価アンケートの自由記述に肯定的な評価を得ている。
授業見学した同僚からも授業の進め方に肯定的な評価を得た。
- 方針 2) 授業評価アンケートの自由記述に肯定的な評価を得ている。
- 方針 3) 対外的な研究発表などを通じて、社会的にも評価を得ており、各種プロジェクトが継続的に展開出来ている。

5. 目標

<短期的目標>

- 授業外も含めた相談記録などをつける。
- 授業における思考方法論の伝授をより明確化した教材づくり。

<長期的目標>

- 都市デザイナー（アーバニスト）の養成
- プランナーとしての態度を学生に涵養して自律的な職業人かつ都市生活者の教育の実践

【添付資料】

- ・「各担当授業科目」シラバス、授業資料
- ・「各委員会業務」会議資料
- ・「授業評価アンケート」自由記述
- ・「プロジェクト成果」研究室 WEB ページ、各種報告書